



フェローシップ・ニュース No.105



アディクション関連講座No.60 2021/2/15

「施設入寮者とスタッフの体験談」

ジミー（青梅アライブ）

（今回は青梅アライブ入寮者のジミーさんの体験談を掲載します）

ジミーと言います。自分はやりたいことやってバイクやバンドやって学校行ったり、ファッションも好きで時間もかけてきたんですが、海外で4年半過ごして、イギリスかアメリカの大学に行くかの時点で日本の文化にも触れたいので帰国子女受験で6大学に合格して日本に戻ってきました。ちょうどバブルが終わった頃だった。大学に行っても新歓サークルのコンパで急性アルコール中毒で亡くなった1年生の女の子がいたりして、何でこんな居酒屋でバカ騒ぎしているんだと思って、日本のギャップに打ちのめされて、4年以上離れていた日本の文化、大学の生活についていけなかった。

大学1年の頃、世田谷の下北沢で一人暮らしを始めた。あの辺はミュージシャンや俳優、芸人がいて劇場があるところ。無法地帯、やんちゃな人たちが住んでいるところで、そこでアルバイトを始めた。アルバイト先ではチーマーあがりやそんなのばかりで、その時に兄貴の親友から最初にマリファナを教わった。初めてドラッグをやった。タバコよりは害はないだろうと。最初はバイト仲間とやっていたし、バイト代が入れば何gか買って皆に分けていた。午前1時にバイトが終わると青山とか西麻布のクラブに行って、朝方まで女のお尻を追っかけて、マリファナ、ハッシュシをやって遊んでいた。

そのときは仲間とやるのは楽しかった。面倒くさくなって自分の分だけ買うようになって、お金がかかるからバイトをやって毎日過ごしていた。母親にお金をせびって買いに行き、毎日使っていた。精神病の躁うつ病をもっていて、マリファナで上がってうつになったのか、どっちが先かわからないか、彼女と付き合うとテンション上がるから、寝ないで吸い過ぎて、何日も起きて家に帰らないで、ずっとテンション上がったまま、マリファナトリップでハイになったまま、躁状態になっていた。彼女が妊娠した。俺は産んで欲しいと言ったのだけど、彼女は大学1年生だったのおろすということで同意した。両方の親にも話さずに、それがきっかけで別れることになった。

僕もうつ状態になった。まず起きられない、パジャマから着替えられない、バイトも行けない、大学も行けない、バイクも乗れない、食事も美味しくない、好きな音楽映画も見ない、大好きだったマリファナも吸う気がしない。そういう状態が続いて母親に話したら、その時は日本に帰国していて、父親が某企業に努めていて、本社が浜松だった。実は母親も同じ躁うつ病を持っていた。大学に休学届を出して浜松に戻ってきなさいと言われた。初めて精神科に行った。でも精神科の先生に診てもらいたくなかった。でも起きられないし廃人のようになっていたから無理やり母親に車で連れてきてもらって、薬を8種類くらい飲んだ。躁状態のときはどんどん体重が55キロに落ちていた。実家に帰ってうつ状態になると僕の場合甘いものが好きでたくさん食べたくなるので、半年で15キロくらい増えた。

大学に復学したいと焦りもあったし、薬飲んで治ったかどうかはわからないけど、浜松で半年休んで、知り合いの工務店でアルバイトで体を動かさなさいということで寒い中、朝6時から仕事をした。そこで悪い癖が出た。徐々に精神的に戻ってきていた。原チャリを借りて浜松のパチンコ屋にも行った。バイト代も入ってなかったからタンス預金から抜いてパチンコにも行った。結局ばれてバイト代を払って、ごめんなさいと謝った。

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域
アディクション研究所

発行日
2021年3月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute) の略称です。

全国のDARCやMAC等の社会復帰施設、福祉・教育・医療・司法機関と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

施設入寮者とスタッフの体験談…ジミー	1
前橋刑務所より感謝状	4
支援につなげる覚せい剤事件の弁護術(16)…高橋洋平	5
藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ…ハーブ	6
司法サポートのご案内 家族教室スケジュール	8

青梅アライブの 日常風景



僕は焦りがあって、高い授業料、入学金を払っているのに、半分治ったか治ってないかの状態で下北沢に戻って復学した。学年が変わると全く新しい友達作りから始めないといけない。ずっと友達が出来ずに、徐々にナチュラルドラッグを始めだして、新しい彼女も出来て、コロコロ浮気もしていた。

小学校の職員室に「人間やめますか？ 覚せい剤やめますか？」のポスターがあって、ずっと脳裏に焼き付いていた。絶対ナチュラルドラッグだけにしておこうと思っていた。東京に戻って、同じアルバイト先に戻った。そこは350席くらいの大きな、有名人も来るようなお店だった。天井にはアメリカの星条旗がかかっていて壁にはエルビスのギターがかかっているようなお店だった。最終的に頑張っただけでホールスタッフで一番古株になって、新しい彼女が出来て、付き合い始めて躁状態になった。バイト先にハーレー乗っているヤクザのボディガードにならないかとスカウトされたような人がいて、その人が売人をやっていた。その人の家に集まるようになって、その先輩に憧れて、ハーレーに無免許で乗ることになったけど、めちゃくちゃになっていた。

マリファナの種を神奈川のマンションで鉢に何粒か落としたりしたら本当に生えてきた。「この葉っぱは何だ？」って母親に言われて、枕の下に「マリファナトリップ」という本も見つけて「これと一緒に葉っぱじゃないの？」と母親に言われて捨てられた。

5年生になっていて卒業できなくて、母親もイライラして、僕はバイト辞めたりを繰り返して、バイトしながら吸ってたから続くわけがない。給料が出たらパチスロで一日で給料を使ってしまう。母親に金をせびって、「バイトも続かないで大学も行かないで何やってるの？こんな夕方まで寝て！」といきなり包丁を枕の横に突き立てられて、母親にキレられた。その頃くらいから完全にウツになった。次の彼女の中絶などいろいろな問題が出来て来て、ハーレー乗りまわして、葉っぱ吸いながらあちこち行って、めちゃくちゃな生活をしていた。その時でも覚せい剤には手を出していなかった。

だんだんとマリファナ、合成樹脂、合成麻薬などゲートウエイドラッグと呼ばれて依存性はないと言われていましたが、完全に毎日それがないと不安で不安でしょうがない状態。無くなったらどうしようか？ どうやって工面しようかと、母親に泣きつけばお金くれるのはわかっていたから、毎日1万くれと言っていた。大学にも行かず、単位も取れず卒業もできず。父親は30年働いた会社を辞めて独立して会社を作った。

1998年10月。父親は俺に何にも言わない。暗黙の了解で勝手に取締役になされた。退職金で新横浜に新築のマンション買って、港区三田の方に事務所を借りて、その頃お金が回るわけなくて、事務所の家賃もすぐに払えなくなるなど思っていたけど、俺はそれでも止められなくて、お金を毎日借りていた。

やっているのもばれていた。鍵を閉められるしロックもされた。最後は三田の事務所は家賃が高いから、新横浜の隣の部屋を事務所にした。両方とも鍵を持っていたけど、真冬に頭を冷やしてきなさいということで、事務所の方の鍵を開けて入ろうとしたら閉まっていた。チェーンがかかっていた。母親は8階のベランダ伝いに命がけで渡って隣の部屋に行き、内側からチェーンをかけて戻った。それほどまでして止めさせようとした。涙ながらに相当努力していた。それでも止められないから毎日使っていた。

父親は一人ぼっちになって、会社は軌道にのらない。母親も病院に行っていたけど治らなかったから薬を飲んでいなかった。赤ワインばかり飲んでた。99年に12月24日に首つり自殺をしてみた。その日はお金をせびって薬物を買に行っていた。走っている途中で涙が出てきて動物の直観というか、なんかまずいなと思っていた。前の週にも8階から飛び降りようとした形跡もあったから、何か考えてるんだなと思っていた。自分のことしか考えてなかった。戻ればよかったんだけど、帰って来たら首を吊っていた。救急車を呼んで、警察も来て、事件か事故かどっちか？僕は嘘をついた。昔付き合っていた彼女と会っていたと。これは自殺だとなり、警察が帰っていった。

それでもまだ止められなかった。罪の意識に耐えられなかった。吸って現実逃避するしかなくて。ずっと2~3年は続いていた。母親も僕もクリスチャンだけど、母親を洗礼した牧師さんがイギリスから日本に戻って来た。「お母さんを殺したのはお父さんとあなたですよ」と言われた。



「1年間教会に這ってでもいいから日曜礼拝に来てください。」と言われた。聖書読んでいるうちにこういうことかとわかってきた。牧師さんにも、「皆の犯した罪のためにイエスキリストは十字架にかけられ死んだ。だから懺悔すれば許されますよ。神様は与えるものは愛だけですよ」と。そういうことを学んで。道具やパケとか全部川に捨てて、薬も飲んで安定した生活をしていた。

また彼女が出来たらまた上がった。ポーンと躁状態に上がった。マリファナも使ってなくても上がった。取締役という肩書があったから、消費者金融でお金を借りられた。手取りで35万もらってまずと言ったら審査ですぐOK。どんどん雪だるま式に増えていき、またドラッグが始まり、風俗、ギャンブル、バイクと。結局、自己破産することになった。2005年。それまで母親が首を吊った部屋ですっと寝ていた。寝る前にやっぱり見るんです。ネクタイで母親がどういう気持ちで椅子に乗って蹴ったのか。自分の母親であっても怖かった。自殺は他殺であると何かに書いてあったから怖かった。

父親は荒れて、会社は軌道にのれず、お酒を飲んでグデグデになっていた。これからは生活保護を受けて質素に生活していきますと法廷で言って免責が出て、父親とは連絡とらないようにして、俺は荻窪に住んだ。生活保護の生活が始まった。パチスロでプラスになっていることもあった。毎日パチスロしていた。負けた月もあった。その時は人材派遣で日払いで働いていた。

ギャンブルを止めようと思っていた。兄貴がロカビリーバンドをやっているから見に行った。暗いライブハウスのフラッシュバックというか、そうしたら欲求が入って、友達と話していたらキメタイよね、という話になった。渋谷のスクランブル交差点に行けばイラン人が座っているのは知っていたから、声かけて始めてしまった。4年は止めていたのに、また手を出した。その頃スーパーでバイトしたりで収入申告していた。でも仕事中は吸わなかった。11時に家に帰って一服して映画見たりしていた。

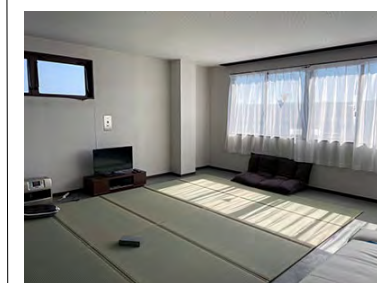
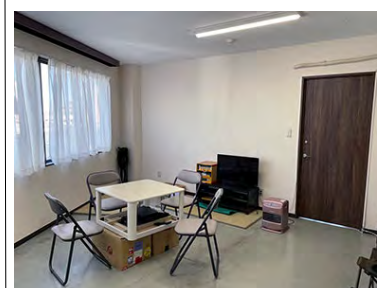
ある日突然、うつ状態に入って死にたくなり、睡眠薬を飲み過ぎた。それがケースワーカーに伝わって、精神障害者の作業所の所長に知られて、居宅は危ないからグループホームに入りなさいと指示が出たので引っ越した。電気代も払ってないし部屋もごみ屋敷だった。病院にも入りなさいと。死ぬには睡眠薬では死ねないから覚せい剤の致死量を検索した。これだけ打てば死ぬるんだと、これで死のうと思った。

急に売人に電話した。「今日は覚せい剤をください」と。これが覚せい剤の始まり。37歳の時。そこからおかしくなって、最初のごみ屋敷が速攻で片づけられるし、最初のうちは家でキメテ、外には持ち歩かなかったのが、時が経てば持ち歩くようになって、ネットカフェやクラブのトイレ、コンビニのトイレでキメるようになった。コントロールできなくなって、お金がすぐなくなるから、結局兄貴に電話して、自転車買いたいとか、就職するためのスーツがないとか、言い訳してお金をもらった。最後はスカイプで知り合ったテレフォンセックスしていた関西の子にお金を振り込んでもらった。東京人の声が新鮮みたいで、標準語はかっこいいねみたい。郵貯銀行に30万振り込んであげるからと。そのうち毎月10万送ってもらうようになった。強制的に言ったわけではないのに、生活大変だろうからと振り込んでくれた。東京に来たときにはホテルで会った。3年位で彼女の貯金500万位無くなってしまった。

覚せい剤の売人が捕まったら今度は歌舞伎町に行って、客引きからあるよと言われて、結局ヤクザから買うようになった。「これありますよ!」「白いやつですよね!」と。それで合法ハーブにハマってしまった。覚せい剤よりひどくて意識不明になって救急車で2回運ばれたことがあった。新宿は無法地帯で1パケ5千円×30日で15万使った。

兄貴や兄貴の友人、おばあちゃん、兄貴の奥さんの母親にも嘘ついてどんどんお金を集めた。止められなくて、いろんなドラッグがミックスになって、覚せい剤で上がり過ぎて、ずっと起きてると安定剤飲んで落とそうと思うと、新宿で遊んでいて武蔵小金井まで帰るのに一週間寝てないから乗り過ぎて八王子まで行った。また折り返して東京駅まで行き、寝ている間にバッグや財布をすられた。めちゃくちゃだった。今度はどうやってお金を手に入れようかと考えた。

今度はドン・キホーテで万引きして質屋やリサイクルショップに持って行って、お金を作る方法しか考えてなかった。携帯代払うよりクスリの方が先。万引きし放題で、ドン・キホーテも立ち入り禁止、西友も小平の宿泊所近くのファミリーマートも立ち入り禁止。深夜にドンキの化粧品売り場に行くと、痴漢やったり、わけわからないことをやった。



結局、27年間使っていて、最終的には六本木のドン・キホーテで12月15日万引きしているときに店長に見つかった。寒かったから全部タグ切って商品の服を着て、店長に全部脱げと言われて、真冬にパンツ一丁になった。パトカー呼ばれて、精算しろと言われて全部支払った。

万引きでは起訴されなくて、麻布警察署に連れて行かれて使用と所持で覚せい剤の初犯で捕まった。人生をリセットするいいチャンスをもたらったのだと思った。27年使って初めて捕まった。判決は1年6月執行猶予3年。昨年2月に釈放された。今も執行猶予中です。

今、目の前に覚せい剤を出されても手をだす気はない。出てきた時に兄貴に電話したら、今度同じことをやったらもう縁を切る、一切面倒を見ないと言われた。本当に一人ぼっちになってしまうし、兄貴は本当に怖い存在だった。よくキレるし、トラウマもあるかもしれない。

ちゃんと売人の名前も顔も教えて捜査の協力はした。娑婆に出て兄貴に電話したら「住むところないだろ？ 弁護士はどこか手配してくれるって言ってなかったか？」 「いや何も聞いてないよ！」と。とりあえずどこかホテル取るからと、新宿のアパホテルに1週間くらい取ってもらって考えようとした。小平の宿泊所にも挨拶に行き詫言を入れてこいと。

杉並福祉事務所に行って事情を説明したら、それならダルクに行く覚悟があるかと聞かれて、「ちょっと考えさせてください」と。そこは極悪人がいるところだと思っていた。自分は依存症ではないと思っていた。

今度は小平市役所に行った。最後にいた宿泊所は起訴された時点で強制退去になっていた。生活保護を申請するのに事情を説明したら、ダルクに行く覚悟はあるかと聞かれた。兄貴にも相談した。「最初の契約金貸してくれない？」と聞いたら「それはいいけど、俺が毎月お前の家賃をずっと払うのか？ それならお前働けよ！ 何でもやれよ！」と言われた。もう娑婆に出てもウツ状態もあるし、自分でやれと言われても、自立できる精神状態ではない、体力的にもできない。

それで結局ダルクに行く覚悟をして、辿りついたのが日本ダルクだった。そこから寮の生活が始まった。前は一人の世界で遊んでいたの誰とも話さなかった。ダルクに来たら似たような奴がいっぱいいるな、面白いなと。話すところだよ、あれやるところだよと話すようになった。

依存症じゃないと思っていたけど、依存症なんだという感覚に陥った。4カ月ダルクでお世話になり、その後暴力事件を起こし、日本ダルクを強制退寮になった。

ヒデオシさん（日本ダルクのスタッフ）と一緒に市役所に行った。「どうするジミー？ 宿泊所もどこも行けないよ」と。ダルクの日割り計算で7万位あったから、少ししのげるかな？ と思っていた。市役所も15時半過ぎていたから「どうします？」となって、ヒデオシさんが「俺はもうすぐ青梅アライブに行くからお前も来いよ！」と。「ちょっと電話してみるから待って、聞いてみるから」と。自分の決断で失敗したことがたくさんあるから、神様に身を委ねようかとヒデオシさんからの連絡を待った。ヒデオシさんから「あ～青梅行けそうぞ！」と。「じゃお願いします！」と。

そして去年7月9日に青梅アライブに辿り着いて、厳しいルールの中クリーンを続けています。



前橋刑務所より感謝状！ 藤岡ダルク



藤岡ダルクが前橋刑務所より感謝状をいただきました。

藤岡ダルクは平成18年から現在まで月に2回、毎回2名の体制で、「薬物再乱用防止教育」の回復プログラムに携わらせていただいています。

今後も回復プログラムに一生懸命取り組ませていただきたいと思います。

コラム

支援につなげる覚せい剤事件の弁護術（16）

嘱託研究員・弁護士 高橋 洋平

とある日の夜中「無事にダルクにつけるかわからないです。今、パトカーに追われていますから。」と緊迫した雰囲気電話してくるY君。

ダルクのスタッフの車に乗りながらもパトカーに追跡される妄想にとらわれている彼と出会ってから早10年。最初に出会ったのが14歳の頃でとても反抗的な態度だったのをよく覚えています。それから少年院に3回行き、不良もやり、薬物にもものめり込んでいきました。

確かに「10年経っても回復していないのか」そう問われると「回復していない」としか答えようがないかもしれません。しかし、Y君はこの10年で大きく成長しました。背も伸びだし、身体も大きくなりました。子供から大人の顔になり、自分の言いたいことを日本語で表現できるようになりました。

先日そんなY君が書いた『私の依存の歴史』というタイトルの体験談を読みました。そこには「自分自身の狂気が止まらなくなったこと、自分の周りに人がいなくなり、孤立し、社会に居場所がなくなったこと、悩んだ末、ダルクで頑張ってみようと思ったこと、それしか選択肢が残っていなかったこと」などが書かれてありました。

10代の大半を少年院で過ごし、その後も不良や薬物の生活。付き合い仲間も不良や薬物関係者。何とか関係を切ろうと努力したこともあったようですが、社会の中に自分の居場所が見つからなかったY君。ダルクに行くことを自分で決断できたことがこれまでの成長の証にも思います。

この後10年経っても回復はしないかもしれませんが、Y君ならきっと新しい仲間とともに今後も成長を続けていくことは想像できます。体験談で「こんな自分を受け入れてくれた仲間感謝しています」と表現できるまで成長した彼ですから、今後も焦らずにゆっくりでよいので少しずつ成長して行ってほしいと思います。

以上

明石書店より
発売！！
全国の書店やAmazon
等でお買い求めくだ
さい！

ダルク
回復する依存者たち
DARC
Drug Addiction Rehabilitation Center
その実践と多様な回復支援 ダルク編
（わたしたち）を束ねる理念があれば、（わたし）たちは自由にいられる
自助グループについての
当事者研究の金字塔
鎌谷 晋一郎
（医師、東京大学大学院医学研究センター准教授）

価格：2,000円
（税別）

なぜ、
わたしたちは
ダルクにいるのか

-The reasons why we are in darc-

ダルク 35周年創立記念フォーラム



2021年5月10日(月)

12:00 開場 12:30 開始

なかのZERO 大ホール

東京都中野区中野2-9-7 (中央本線「中野」南口から徒歩8分)

ダルク35周年創立記念フォーラム

なぜ、わたしたちは
ダルクにいるのか

日時：2021年5月10日(月)

12:00開場 12:30開始

会場：なかのZERO大ホール
(東京都中野区中野2-9-7)

交通：JR中央線「中野」駅
南口から徒歩8分

入場料：無料

申込：不要

新型コロナウイルス感染拡大の状況により再度延期の可能性もあります。またZOOMでの参加も検討しています。

詳細が決まり次第アパリのホームページに掲載します。

藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ

「ターニングポイント」

ハーブ

NPO法人アパリアは、群馬県藤岡市にある藤岡ダルクを運営しています。同施設の入寮者からのメッセージをお届けします！



こんにちは。薬物依存症のハーブです。私は21歳の時に覚せい剤を使いました。きっかけは見栄です。

高校中退後、大学検定を取得し、大学に入学して間もない時に使いました。大学に合格した事で、高校を退学になってしまった事を挽回出来たと浮かれています。自分へのご褒美だと、学校にロクに通わず遊び呆ける日々を送っていました。そんな中、憧れていた女性から聞き慣れない話題（S・ハイヤつ）をされ、それを知らない事が恥ずかしく感じて、さも知っているかの如く会話を合せる事をしました。それからは話題が薬物中心となっていく、ウソを突き続けることが苦しくなりました。実は使ったことがないと言う勇気が私にはありませんでした。それで私は薬を使おうと決めました。

実際に経験してみると「思ったよりもたいした事ないな」と感じました。これだったらいつでもやめられると思い、友人にもすすめて使うようになりまして。クスリを使う事が、特別な事から当たり前の事になりました。たまに使うものがいつも使うものになりました。クスリを友人に売るようになり、友人が客になりました。友人との会話が（お金の話）か（クスリの話）になりました。人と一緒にいても、孤独を感じるようになりましてが、使っていると孤独が心地よく感じられました。一人で使う事が多くなりました。依存はすすんでいき、クスリが楽しいものから必要なものになりました。クスリが身体に入っている時が普通で、クスリが切れると苦しいので使う。使い続けるしかなくなりました。いずれは逮捕されるとわかっていながら使い続けました。その結果は逮捕でなく、錯乱した勢いで手首を切り自殺未遂をしました。一命を取り留め、精神病院に入院し、やっとクスリがまりました。

退院後、クスリを使わないことを心に決め自分の力で更生しようと頑張りました。借金を返済し、会社員として働けるようになりまして。しかし無理がたたり私はうつになってしまいました。仕事に行く事もできなくなりました。クスリを使ってないのに自分の精神状態がおかしくなってしまった事が、私にはすごく悔しく感じました。楽しい事がない灰色で曇った毎日は、とても苦しい毎日でした。うつ改善のためにいろいろしましたが、一向によくなりませんでした。それどころか、うつは悪化しました。そんな時に友人が勧めてくれたのが、ソフトドラックでした。使うことに抵抗はなく使用しました。それでうつがよくなることは期待していませんでした。ところが二度、三度と使用していくうちに、不思議なことに私の中のうつが晴れていきました。仕事にまた就くことができました。私の友人・彼女もソフトドラックを使用することに反対をせず使用環境が整いました。ハードドラックと違い、周りの理解を得られたことで罪悪感を抱えず使用することができました。

私には高校時代にホームステイの機会を言葉が通じないことが怖く断った過去がありました。動機はドラック目的と不純でしたが、海外に行くことが叶いました。海外で遊ぶことに夢中になり、毎年3ヶ月程海外で遊ぶ生活を送りました。今年で最後にする、そう決めて出発するのですが、帰国した時にはもう次の旅行を計画する始末で貯金も目減りしてしまいました。悠々自適な生活を維持するために、クスリを売りました。仕事をしている事以外は、ハードドラックを使っていた時と変わらなくなりました。正気を保つための使用です。逮捕さえされなければいいのだと自分に言い聞かせていました。約7年の間に、海外で拘束された経験があります。成田空港の税関で荷物の中のドラックを発見された事もあります。それでも自分がクスリをまともに使えなくなっている事に気づきませんでした。友人からの忠告にも、聞く耳を持たず使い続けました。海外だからいいのだと他のドラックも使用するようになり、とうとう本命のハードドラックを再使用しました。まもなく1ヶ月後に逮捕されました。

「真冬のタンポポ」

■発行：双葉社

価格：1,400円（税別）



清原和博、ASKA、清水良太郎…
第1章「芸能人と覚せい剤」を追加収録
「何度つまずいてもいい。
人生に失敗なんかないんだ」
ダルク代表が伝える“自分の痛み”に寄り添うことの大切さ

ロングセラー
『拘留所の
タンポポ』
改訂版

※全国の書店またはAmazon等でお買い求めください。

※FAXでの注文も承ります。

FAX：03-5312-7588

ご注文の際には、住所、氏名、電話番号を記入し、日本ダルク事務局まで。

逮捕された事よりも、逮捕後の周りの人達との温度差に私はショックを受けました。なんとか自力で立て直しを図るもクスリを使う勇気もなく、さらには親からも突き放されて行き場がなくなり自分ではどうすることも出来ず、福祉事務所に相談をして山梨ダルクに入所することとなりました。

山梨ダルクで7年間プログラムを受けました。同じ依存症の仲間と関わってく中で、過去のトラウマや、生きづらさの問題にぶつかりながらも薬を使わない期間を積み上げました。しかし、自分の中の恐れから生じる不正直さや、捨てきれない自分のエゴなどの問題となかなか向き合う事が出来ず、職員研修や山梨での就労活動をしていきました。がうまくいきませんでした。施設長と話し合い藤岡ダルクに移動し、自立を目指すことになりました。それが約3年前の事です。スタッフ研修として3ヶ月、自分の問題を見直すために1年間、藤岡ダルクのプログラムを二度経験して、今回で藤岡ダルクは3回目です。

迎えは、以前エイサーを通して仲良くなった仲間が、スタッフとして来てくれました。車中の仲間との会話が、私の恥ずかしい気持ちと緊張をほぐしてくれました。いざ施設についてみると、前回の入所とは仲間の顔ぶれが一新していました。仲間の名前を覚える事から施設生活が始まりました。

施設からの提案もあったり就労の話を持ち出せない自分がいたりしましたが、そのおかげで施設プログラムに集中して取り組む事ができました。そんなさなか、秋の終わりに施設長から働くよう提案されました。望んでいた就労でしたが、春から働くと勝手に決めてしまい冬の間活動をしませんでした。自分のエゴのために、一旦就労は見送りとなりました。2年目はNAサービスに精力的に取り組みました。またコロナ禍での過ごし方として余暇時間に筋トレを取り入れるようにしました。施設のルールでプロテインやサプリの使用ができない中、鶏肉をメインに食事管理を行ったり、いろいろ本を読んで勉強したりしました。その中で、地道な努力を積み上げることで得る達成感や幸福を知りました。快樂とは真逆のベクトルのもので、シラフで気持ちいいと思えるものが見つかりました。今後も続けていこうと思える趣味の一つができました。トレーニングを通じて仲間と分かち合う時間も増え、施設生活がより楽しくなり、さらに、望んでいた就労の機会も提案されました。

そしてデイケアへの通所が始まりました。移動して自分の趣味とデイケアでのプログラム3か月間取り組み、就職活動が始まりました。じっくり自分のやりたい仕事を探したいと思っていましたが、スタッフと相談して、早く仕事に就く事を目標に就活をシフトチェンジして行きました。最初に決まったラーメン屋で働いていますが、実際に働いてみるとすごく忙しい中に充実感を感じて良かったと今では思っています。相談した事でいい方向に進めたと思えています。

自分ではわからない自分の状態の変化を見てくれ、筋トレの頻度を減らすような提案や慎重に行動するようにと励まされてきました。（言われたからやる）ではなく、（まずはやってみよう）とその都度修正をしました。働き始めてから9ヶ月目が経過し、週3日からスタートしたバイトも今では平日の週5日に増えました。

これから自立に向けての部屋探しなどをしていく予定ですが、職員に相談しながら焦らずに進めていきたいと考えています。人に頼る事を恥だと以前は思っていたが、今は知恵だと思えるようになりました。先行き不安もありますが、相談する仲間がいるから大丈夫だと思えています。

生き直しの機会を施設・職員・仲間・ハイパーパワーから与えてもらいました。
感謝、感謝、感謝！

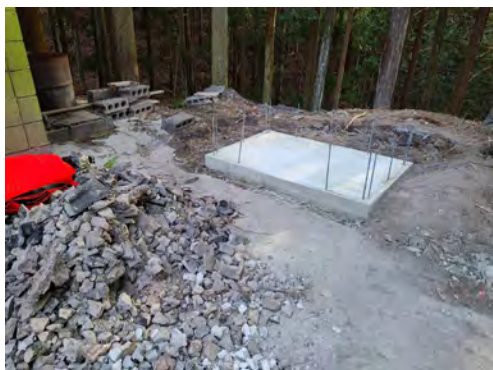


スポーツ・プログラム
フットサル
藤岡市体育館にて



ZOOMミーティング
遠く離れた仲間との
ミーティング

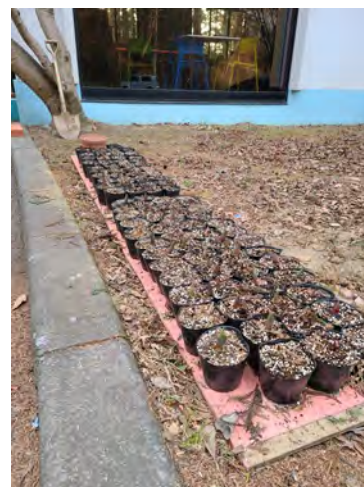
施設での役割風景



<設備係>
新しい焼却炉を作っています



<食事当番係>
調理風景



<庭花係>
春に向けて
チューリップ栽培



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部
〒162-0055
東京都新宿区余丁町14-4
AICビル1階
電話：03-5925-8848
FAX：03-5925-8984
Email：info@apari.or.jp

○藤岡ダルク
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313
○入寮費：月額13万円+生活費
1日千円（初月のみ14.5万円）
（税別）
*生活保護の方も可能
○入寮条件：薬物依存症から
回復及び自立をしようとして
いる本人。男性のみ。
○入寮期間：個人により差が
あります。
<https://fujiokadarc.com/>



2019年7月よりホームページが新しく
なりました。ぜひご覧ください。
<https://apari.or.jp>
<https://www.facebook.com/AsiaPacificAddictionResearchInstitute/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
2021年3月1日発行
定価 1部 100円

＜司法サポートのご案内＞

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。保釈中のプログラムの提供、受刑中の身元引受、出所出迎えをしてリハビリ施設につなげるまでをコーディネートします。

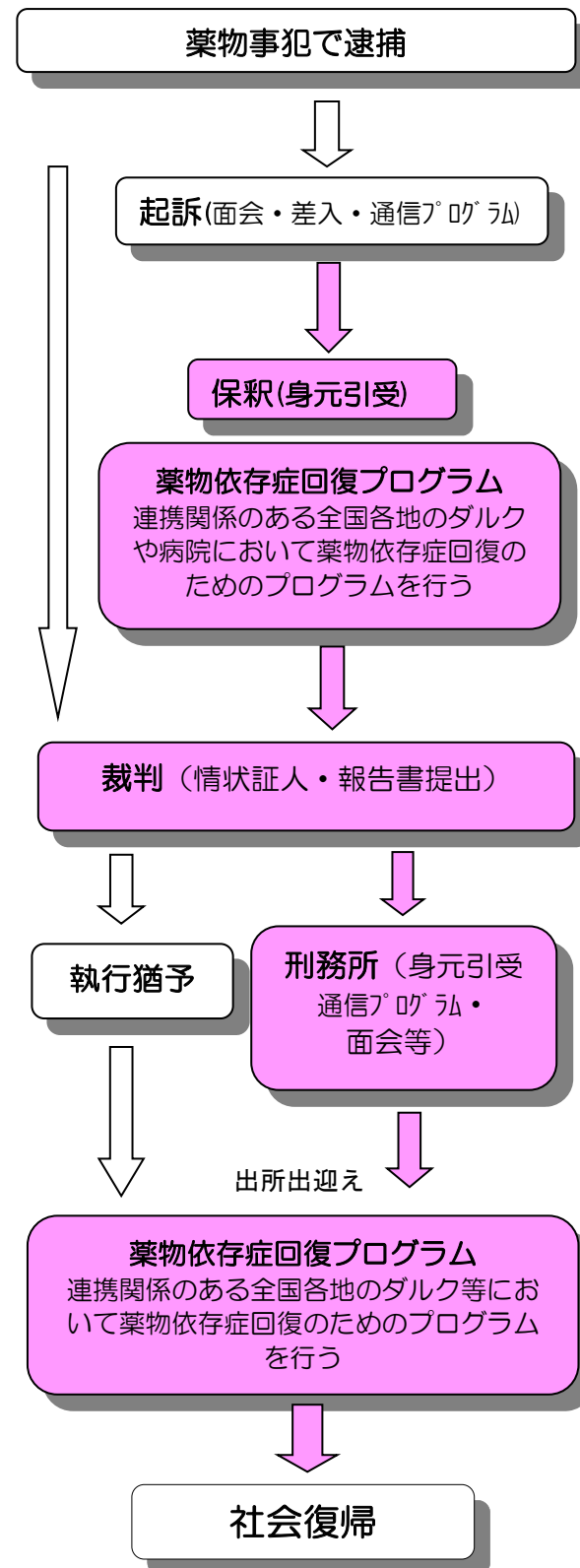
ギャンブルの問題が原因で逮捕された方やクレプトマニアの方の司法サポートも行っています。

[料金：コーディネート費用として20万円(税別)。
交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

窃盗、横領、詐欺等で逮捕されたご家族の相談もお受けしています。

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



＜アパリ家族教室スケジュール・東京＞

第1月曜	連続講座	第3月曜	アディクション関連講座
3/1(月)	第6回 子どもの成長を助ける関わりについて	3/15(月)	No.61 「藤岡ダルクの最先端プログラムの 実践、その効果について」 山本 大(藤岡ダルク代表)
4/5(月)	第7回 薬物問題を持つ人の家族の回復 プログラム	4/19(月)	No.62 「弁護士は見た！薬物事件簿①」 高橋洋平(弁護士)
5/17(月) 第3に変更	第8回 あなたの環境や状態を良いもの に変えよう	5/24(月) 第4に変更	No.63 「処方薬の疑問にお答えします」 梅野充(アパリクリニック・医師)
6/7(月)	第1回 薬物依存症によるダメージと回復	6/21(月)	未定
7/5(月)	第2回 薬物の欲求と「きっかけ」「危険な 状況」への対処について	7/12(月) 第2に変更	未定

【対象】

○連続講座(全8回)は家族のみが参加可能で、どの回からでも参加できます。
○アディクション関連講座はどなたでも参加できます。

【時間】18:30～20:30 【場所】アパリ東京本部 AICビル1階 ミーティングルーム
【参加費】3,000円(2名以上の場合は4,000円) 【申し込み】不要